

新市営汽船「しおね」運航開始

島民らの思いを乗せて

島民や観光客らの足を支える
新たな小型船

4月1日から塩釜港(マリンゲート塩釜)と浦戸諸島を結ぶ「浦戸しおね」海廊(※)に、市営汽船新小型船「しおね」が就航しました。「しおね」は、旅客定員97人でマリンブルーの船体が特徴的です。また、バリアフリーに対応しており、トイレに手すりが付いたり、車いす用のスペースが設置されていたりします。

サービスの維持向上を第一に、島民の利便性と交流人口の拡大のため動き始めた「しおね」。島民をはじめ、浦戸小中学校の児童・生徒や観光客らの足を支えていきます。

(※)塩釜～浦戸各島を結ぶ定期航路の愛称



▲野々島棧橋では、浦戸小学校の児童による太鼓演奏で出迎えられました。



▲船内では車いすの固定ができます。



いつも潮の音が響き渡るように…

船名の決定は公募で行われ、翁千秋さん(塩竈市)の作品が採用されました。翁さんは、昨年度末で廃船となった中型船「みしお」の命名者でもあり、「みしおが廃船になったことは残念ですが、再度船名に採用されてとても光栄です。自分の子どもができたよううれしいです」と話されました。「塩竈の美しい港にいつも潮の音が響き渡るように」という翁さんの思いで名付けられた「しおね」に乗って、浦戸に足を運んでみませんか。



▲命名者 翁千秋さん

問 浦戸振興課市営汽船係
☎36117710

シリーズ 塩竈の魅力再発見

塩竈には、「海」「寿司」「神社」など、皆さんもご存知の魅力的な観光資源がたくさんあります。しかし、このほかにも身近すぎて気づかない「塩竈の魅力」があるはずです。

そこで、今年3月に策定した「塩竈市観光振興ビジョン」の、推進メンバーの皆さんなどがおすすめする「塩竈の魅力」をシリーズで紹介していきます。

「小道」から、新しいことが見つかるかもしれない

「塩竈には小道や坂がたくさんあります。それも魅力の一つだと感じます。」と話したのは、観光振興ビジョン推進メンバーの富谷圭輔さん。

たくさんある中の一つを教えてくださいと、本町通りから一步入った小道は季節の変化を楽しめる面白さがあると話します。

「本町通りから杉村惇美術館まで向かい、第一小学校との間の小道が特に好きです。」と話しながら、落ち葉が秋雨にぬれた道筋にたまった写真を見せてくれました。

富谷さんは「小道散策は、普段見落としがちで小さな変化を感じられる魅力がありますね。」と話してくれました。

皆さんも、「小道散策」から新しいことを発見しませんか。



観光振興ビジョン
推進メンバー
富谷 圭輔さん



問 観光交流課人・まち交流係 ☎364-1165



広報しおがま

2018.5

編集発行 / 塩竈市市民総務部政策課
〒985-8501 宮城県塩竈市旭町1番1号
☎022-355-5728 FAX022-367-3124

塩竈市公式ホームページ
http://www.city.shiogama.miyagi.jp/
E-mail: sisei@city.shiogama.miyagi.jp



QRコード
読み取り
スマートフォンから
ホームページに
アクセスできます